



はじめに

Cloud Volumes Service for Google Cloud

NetApp

July 19, 2022

目次

はじめに	1
Cloud Volumes Service for Google Cloud の詳細をご覧ください	1
Cloud Volumes Service for Google Cloud のクイックスタート	2
Google Cloud をセットアップします	2
Cloud Volumes Service for Google Cloud の作業環境を作成します	3

はじめに

Cloud Volumes Service for Google Cloud の詳細をご覧ください

NetApp Cloud Volumes Service for Google Cloud を使用すると、マルチプロトコルワークロードを迅速に追加できるだけでなく、Windows ベースと UNIX ベースの両方のアプリケーションを構築、導入することができます。

主な機能：

- オンプレミスと Google Cloud 間でデータを移行
- ボリュームを 1 から 100TiB に数秒でプロビジョニング
- マルチプロトコルのサポート（NFS または SMB ボリュームを作成できます）
- 自動化された効率的なスナップショットでデータを保護します。
- 迅速なクローニングでアプリケーション開発を高速化

コスト

Cloud Volumes Service for Google Cloud で作成されたボリュームには、Cloud Manager ではなくサービスへのサブスクリプションが課金されます。

Cloud Volumes Service for Google Cloud のリージョンまたはボリュームを Cloud Manager から検出する場合、料金は発生しません。

["Google Cloud Marketplace で価格を確認"](#)

サポートされている地域

["サポートされている Google Cloud リージョンを表示します。"](#)

始める前に

Cloud Manager では、既存の Cloud Volumes Service for GCP サブスクリプションとボリュームを検出できます。を参照してください ["NetApp Cloud Volumes Service for Google Cloud のドキュメント"](#) 月額プランをまだ設定していない場合は、

サポートを受ける

Cloud Manager の Cloud Volumes Service 処理に関する一般的な質問については、Cloud Manager のチャットを使用してください。

Cloud Volumes Service for Google Cloud に関する一般的な質問については、ネットアップの Google Cloud チームに gcinfo@netapp.com まで E メールでお問い合わせください。

クラウドボリュームに関連する技術的な問題については、Google Cloud Console を使用してテクニカルサポ

ートケースを作成できます。を参照してください ["サポートを受ける"](#) を参照してください。

関連リンク

- ["NetApp Cloud Central : Cloud Volumes Service for Google Cloud"](#)
- ["NetApp Cloud Volumes Service for Google Cloud のドキュメント"](#)

Cloud Volumes Service for Google Cloud のクイックスタート

これらの手順を実行するか、リンク先を参照して詳細を確認してください。

Google で、Cloud Volumes Service for GCP API を有効にして、Cloud Manager がサブスクリプションとクラウドボリュームを管理できるようにします。

["API を有効にする方法について説明します"](#)。

Google で、サービスアカウントとロールを作成して、Cloud Manager から Cloud Volumes Service for Google Cloud アカウントにアクセスできるようにします。

["サービスアカウントの設定方法について説明します"](#)。

Cloud Manager で、* 作業環境の追加 * > * Google Cloud * > * Cloud Volumes Service * をクリックし、サービスアカウントと Google Cloud プロジェクトの詳細を指定します。

["作業環境の作成方法について説明します"](#)。

Google Cloud をセットアップします

Cloud Manager は、Cloud Volumes Service API にアクセスする必要があり、Google Cloud サービスアカウントから適切な権限を取得する必要があります。

Cloud Volumes Service API を有効にします

Google Cloud Shell で、次のコマンドを実行して Cloud Volumes Service API を有効にします。

```
gcloud --project=<my-cvs-project> サービスは cloudvolumesgcp-api.netapp.com を有効に  
します
```

サービスアカウントを設定します

Cloud Manager が Google Cloud プロジェクトにアクセスできるようにするには、次のタスクを実行します。

- 新しいサービスアカウントを作成します
- 新しいサービスアカウントメンバーをプロジェクトおよびに追加します IT 固有のロール（権限）の割り当て
- サービスアカウントのキーペアを作成してダウンロードします Google への認証に使用されます

手順

1. Google Cloud コンソールで、"[\[サービスアカウント \]](#) ページに移動します"。]
2. [[* プロジェクトの選択 *](#)] をクリックし、プロジェクトを選択して [[* 開く *](#)] をクリックします。
3. [[サービスアカウントの作成 *](#)] をクリックします。
4. サービスアカウント名（フレンドリ表示名）と概要を入力します。

Cloud Console は、この名前に基づいてサービスアカウント ID を生成します。必要に応じて ID を編集します。後で ID を変更することはできません。

5. 今すぐアクセスコントロールを設定するには、ページの下部にある「[* 作成 *](#)」、「完了 [*](#)」の順にクリックして、次の手順に進みます。
6. `_iam` ページの `_Click * Add *` をクリックし、`_ Add Members_page` のフィールドに入力します。
 - a. [新しいメンバー] フィールドに、[user1-service-account-cvs@project1.iam.gserviceaccount.com](#) などの完全なサービスアカウント ID を入力します。
 - b. 追加するロールは次のとおりです。
 - `NetApp Cloud Volumes Admin` `_`
 - `ネットワークビューアを計算します` `_`
 - c. [保存（Save）] をクリックします。
7. [[サービスアカウント名](#)] をクリックし、`_Service` アカウントの詳細ページで、[[* キーの追加 > 新しいキーの作成 *](#)] をクリックします。
8. キーのタイプとして `* json *` を選択し、`* Create *` をクリックします。

[`* Create`] をクリックすると、新しい公開鍵と秘密鍵のペアが生成され、システムにダウンロードされます。秘密鍵の唯一のコピーとして機能します。このファイルは、サービスアカウントとしての認証に使用できるため、安全に保管してください。

詳細な手順については、Google Cloud のドキュメントを参照してください。

- "[サービスアカウントの作成と管理](#)"
- "[リソースへのアクセスの許可、変更、取り消しを行います](#)"
- "[サービスアカウントキーの作成と管理](#)"

Cloud Volumes Service for Google Cloud の作業環境を作成します

ボリュームと Snapshot を作成および管理できるように、Cloud Manager で Cloud Volumes Service for Google Cloud 作業環境を作成します。

Google Cloud Console からボリュームを作成済みかどうかに関係なく、Cloud Volumes Service for Google Cloud にサインアップしてまだボリュームを持っていない場合は、最初に GCP サブスクリプションに基づいてボリュームの作業環境を作成します。

このサブスクリプション用のクラウドボリュームがすでに存在する場合、ボリュームは新しい作業環境に表示されます。GCP サブスクリプションにまだクラウドボリュームを追加していない場合は、新しい作業環境を

作成した後で追加します。



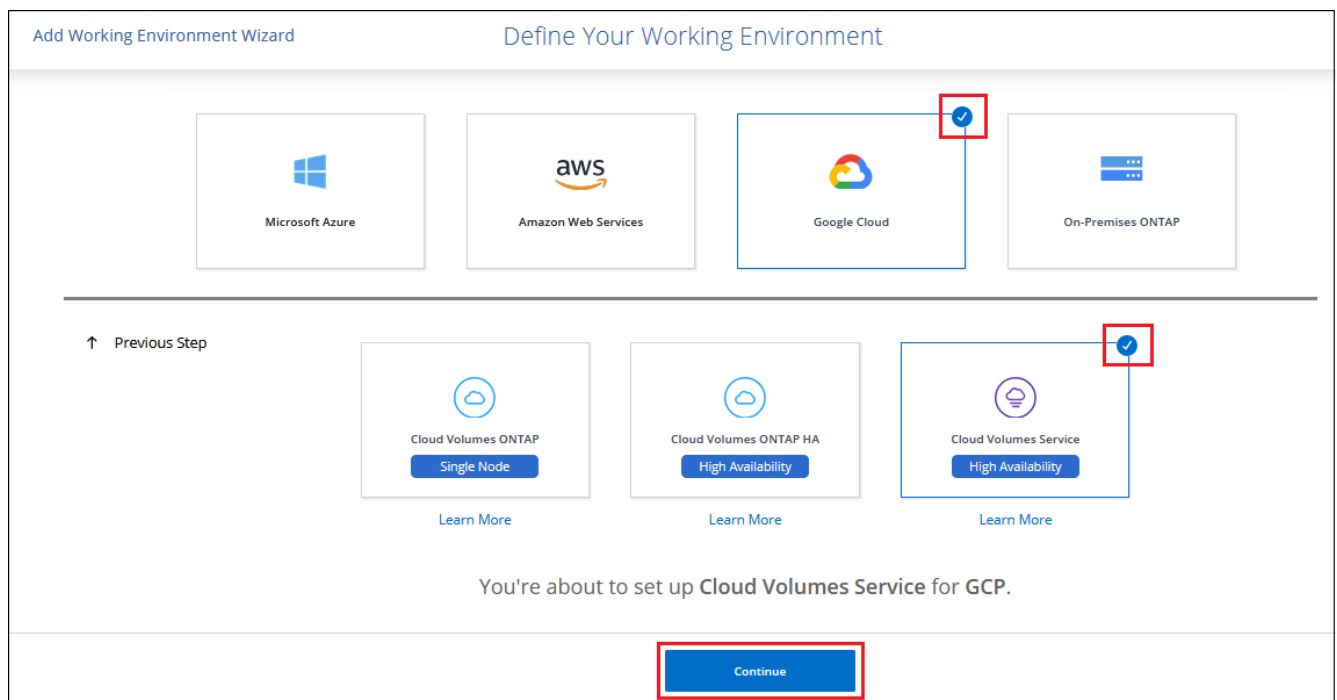
複数の Google Cloud プロジェクトにサブスクリプションとボリュームがある場合は、プロジェクトごとにこのタスクを実行する必要があります。

各プロジェクトのサブスクリプションを追加する際は、次の情報を確認しておく必要があります。

- サービスアカウントのクレデンシャル（ダウンロードした JSON 秘密鍵）
- プロジェクト名

手順

1. Cloud Manager で、新しい作業環境を追加し、場所として「* Google Cloud *」を選択し、「* Continue *」をクリックします。
2. 「* Cloud Volumes Service *」を選択し、「* Continue *」をクリックします。



3. Cloud Volumes Service サブスクリプションに関する情報を入力します。
 - a. 使用する作業環境名を入力します。
 - b. 前の手順でダウンロードした JSON 秘密鍵をコピーして貼り付けます。
 - c. Google Cloud プロジェクトの名前を選択します。
 - d. [* Continue（続行）] をクリックします

Cloud Volumes Service Credentials

Working Environment Name

Service Account Credentials

Paste the contents of the JSON file here

Apply

Project

- Select project -

Cloud Manager に Cloud Volumes Service for Google Cloud の作業環境が表示されます。



このサブスクリプションに Cloud Volume がすでに存在する場合は、新しい作業環境にボリュームが表示されます。Cloud Manager からクラウドボリュームを追加することができます。

このサブスクリプションにクラウドボリュームが存在しない場合は、ここで作成します。

"ボリュームの作成を開始します"。

著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。